

電気自動車を制作

8時間フル充電 60キロの走行可能

九州工業大学情報工学部の学生たちが、オリジナルの電気自動車(EV)を制作し、飯塚市川津のキャンパスで走行試験を続けている。最高時速は約50キロ。今後も改良を重ね、全国で開催されているEVレースへの参加を目指す。

制作したのは、学生サークル「e-car」のメンバー。3年前、情報工学研究院の鈴木裕教授(機械工学)が「学生主体のプロジェクトに挑戦

しよう」と呼び掛け、学部生と大学院生の計十数人が集まった。

メンバーは分担して、部品の設計や製造を受け持った。自走できなくなったガソリン車のエンジンなどを取り外し、代わりにモーターやバッテリーなどを取り付け、EVに改造。昨年12月に走行が可能になった。

家庭用電源による8時間

間のフル充電で、約60キロの距離の走行が可能という。ただ、感電を防ぐ絶縁対策などが必要のため、車検を通っていない。現在はキャンパス内だけでテスト走行している。

サークルの部長、中村知行さん(21)は「まずは

EVレースへの出場を目指す。将来は情報工学部らしく、センサカメラやスマートフォン(多機

九工大の学生たちが制作した電気自動車

